トップメッセージ

**パーパスを実現する主体的（Proactive）な知的財産活動**

**知的財産本部長　小林 利彦**



　エプソンがパーパスを実現するために実践すべき戦略として位置付けた長期ビジョン「Epson 25 Renewed」。この「Epson 25 Renewed」において示したありたい姿、それは「持続可能でこころ豊かな社会の実現」です。またエプソンは会社の目的として「社会に貢献すること」を明確に掲げています。エプソンの考える社会貢献とは、エプソンが保有する独自のコア技術や製品・サービスを用いてイノベーションを生み出し、社会・環境・経済に対して「価値」を創造し、提供することにより、ありたい姿の実現を目指すことなのです。

これを受け、私たち知的財産本部はミッションとして以下を掲げています。

|  |
| --- |
| **「Epson 25 Renewed」達成に向けた 知的財産本部ミッション** |
| **知的財産権だけでなく、 ブランドやデータなどを含む広い意味での「知的財産」を価値に変換し、企業価値の持続的成長の実現を支援する。** |

このミッション達成のために、私たちエプソンの知的財産本部は、「主体的（Proactive）な知的財産活動」（以下、知財活動）を重視しています。

すなわち、エプソンの知財活動は、第三者からの権利行使に対抗して、保有する知的財産権を受動的（Reactive）に使用するのではなく、将来事業を先読みした知的財産権を取得し、保有する知的財産権を積極的に活用することによって、将来発生するであろう潜在的な知財課題に主体的に対応することをポリシーとしています。



さらに、左に示した知的活動の価値階層レベル５達成を目指し、以下の３点にも注力しています。

（１）知財情報にさまざまな情報を関連付けしたIPランドスケープにより分析されたデータから、将来景色を想像し、イノベーション創出に関わる提案を積極的に行う

（２）スタートアップ企業、異業種企業ならびに大学を含む他者との共創活動を円滑に進めるために、契約面から第三者との協業を強力にサポートする

（３）ブランド・アイデンティティに紐づく技術、デザイン、名称を知財ミックス（特許権・意匠権・商標権・著作権）により徹底的に保護し、ブランド価値向上に貢献する

私たち知的財産本部は、これらのミッションに基づく戦略の実行により、「Epson 25 Renewed」の達成、さらにはパーパスの実現に貢献します。

**エプソンの知的財産戦略**

知的財産戦略

エプソンでは、「主体的（Proactive）な知的財産活動」を行動指針とし、経営戦略、事業・開発戦略と密接に連携した知的財産戦略（以下、知財戦略）を策定することにより、将来を先読みした知的財産権の取得、保有する知的財産権の積極的な活用などの知財活動を行っています。

エプソンの知財戦略には、以下のような特徴があります。

経営戦略、事業・開発戦略と知的財産戦略の統合

エプソンでは、「経営戦略」、「事業戦略・開発戦略」、「知財戦略」を統合して推進していくことを基本としており、事業ごとの「事業部長／開発本部長、知的財産本部長による２者懇談会」を定期的に開催し、さらに「社長、事業／開発本部長、知的財産本部長による３者懇談会」も開催しています。

これらの懇談会では、技術・ビジネス・知財情報を多面的に調査・分析するIPランドスケープなどを活用した、イノベーションを支援・促進する戦略、事業をより強くする知的財産権（特許権・意匠権・商標権など）の取得および活用戦略についての議論を行っています。

このように「経営」、「事業・開発」、「知財」の3者の距離が非常に近い関係であることは、エプソンの知財活動の大きな特徴です。「持続可能でこころ豊かな社会の実現」に向けて、エプソンの強みとなる独自のコア技術を守るための開発戦略と連携した知的財産権の取得戦略の策定、社会課題の解決に取り組むための事業戦略と連携した知的財産権の活用戦略の策定を行い、これらの戦略に基づき知財活動を遂行しています。

長期ビジョン「Epson 25 Renewed」の重要な取り組みの「環境」「DX」「共創」については、「経営」、「事業・開発」、「知財」との懇談会での議論を通じて知財戦略を策定し、以下のような知財活動を進めています。